

状況記録写真

(様式6)

区分

自主

森林技術センター



無下刈区 ~ 下刈区 ~ 無下刈区

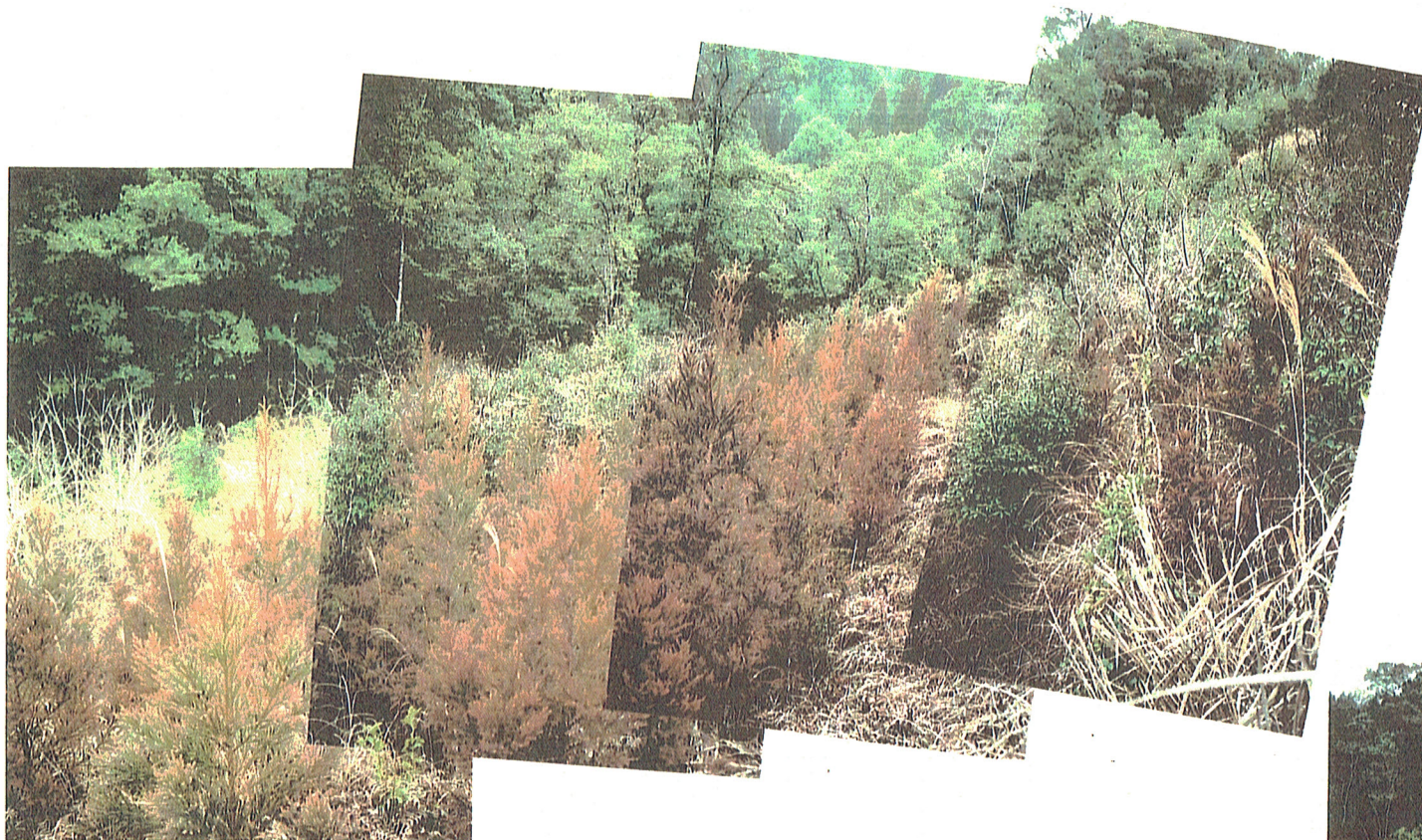
H16.3.1 撮影

状況記録写真

区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



下刈区

16.3.1 撮影

無下刈区



技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課 題	33 耐陰性スギ系統による無下刈試験				開 発 期 間	平成10年度 ~ 平成20年度									
開 発 箇 所	去川国有林 267ぬ ₃ 林小班	担 当 部 署	森林技術センター	共 同 研 究 機	林木育種センター 九州育種場	技 術 開 発 目 標	3	特 定 区 域 内	○	特 定 区 域 外					
開 発 目 的 (数 値 目 的)	人工陰施設（寒冷紗）で生育良好な苗木を植栽し無下刈試験林を設定。生育過程等を解明（実証）する。														
年 度 別 実 施 報 告	16年度 実 施 報 告					17年度 実 施 計 画 書									
	実 施 内 容					普 及 指 導									
平成10年度 ①地拵え・植付②調査プロット設定 ③設定時調査（根元径・樹高・枝張り）④試験地標示 平成11年度 ①下刈・無下刈②生長量調査（根元径・樹高・枝張り）③枯損調査 平成12年度～平成15年度 ①下刈・無下刈②つる切③生長量調査（根元径・樹高・枝張り）④枯損調査	<p>1 下刈 7月 面積：0.27ha 人工数：1.500人</p> <p>2 除伐 無下刈区の約半分を実施（4月） 人工数：2.250人</p> <p>①無下刈区は、雑灌木等の被圧・側圧で試験木の上長生長が期待できないので、試験地の半分を除伐した。除伐、無除伐の生長を比較する。</p> <p>3 つる切（8月） 面積：0.27ha 人工数：2.000人 白灯油：2ℓ</p> <p>4 試験地調査（生長量） 平成17年2月調査（野帳別途保管） 人工数：4.625人</p>					<p>下刈区（2・3プロット）の生長がよい。 下刈区1プロットは尾根部で土壌がスギに不適で生育が悪い。 樹高平均値以上の生長の良いクローンは、肝属1号、肝属2号、諫早1号等である。 本試験のデータから無下刈りによる枯死率が低いことから、スギ植栽後の下刈り回数の削減を図る省力化や侵入雑灌木の中の有用樹を保全し、針広混交林に誘導する施業も可能となる。</p>					<p>1 生長量調査 2 試験地管理</p>				
技術開発委員会における意見															

(注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。
 2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について、特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は、「◎」のいずれかを記入すること。
 3 「技術開発目標」欄には、「九州森林管理局における技術開発目標（九州森林管理局長通達）」の1～5のうち、該当する目標の番号を記入すること。
 4 「技術開発委員会における意見」欄には、技術開発委員会における意見を記入すること。

「耐陰性スギ系統による無下刈試験」

写真1 無下刈区除伐後



写真2 無下刈区除伐後



写真3 下刈区下刈実行後



写真4 下刈区下刈実行後

